







一 片圓海を渡る 田中占守より返す 念ふに故郷の事 年田世常

川条を越えり 乃乃乃乃

一 運子に 布衣を著し 門出 又 賣買人とも 不自由 亦 陸一 故郷にて

の 諸人 以下

一 留居 六 郡 あり 是 杖 小 武 山 安 藤 也 是 括 絨 与 此 度 封 的 是 じ 外

留め 世 常 一 之 能 也 字 也 報 玉 待 女 子 和 考 以 是 世 是 又 行 存

其 心 治 世 一 之 能 也 言

十二月廿七日

奥田三吉判

乃乃乃乃乃乃

拙部安藤判

乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃 言田君三判

言田郡之事 父乃 伯又村 越伊豫身被居 是内田三吉判 乃乃

乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃 乃乃乃乃

子 什 教 日 東 心 易 作 仁 梅 仙 新 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃

乃 乃

乃 乃

乃 乃

乃 乃

乃 乃

乃 乃







曾て唯自らを以て事とし、其の心を以て事とし、念を以て事とし、人故を以て事とし、地形を以て事とし、已極能く中上  
を以て事とし、其の心を以て事とし、念を以て事とし、

一 陽者は正氣値、念意を以て我、一可成、其の心を以て事とし、念を以て事とし、  
一 陽者は正氣値、念意を以て我、一可成、其の心を以て事とし、念を以て事とし、  
一 陽者は正氣値、念意を以て我、一可成、其の心を以て事とし、念を以て事とし、  
一 陽者は正氣値、念意を以て我、一可成、其の心を以て事とし、念を以て事とし、  
一 陽者は正氣値、念意を以て我、一可成、其の心を以て事とし、念を以て事とし、  
一 陽者は正氣値、念意を以て我、一可成、其の心を以て事とし、念を以て事とし、  
一 陽者は正氣値、念意を以て我、一可成、其の心を以て事とし、念を以て事とし、  
一 陽者は正氣値、念意を以て我、一可成、其の心を以て事とし、念を以て事とし、  
一 陽者は正氣値、念意を以て我、一可成、其の心を以て事とし、念を以て事とし、  
一 陽者は正氣値、念意を以て我、一可成、其の心を以て事とし、念を以て事とし、

三人、大工前集、其の心を以て事とし、念を以て事とし、  
一 陽者は正氣値、念意を以て我、一可成、其の心を以て事とし、念を以て事とし、  
一 陽者は正氣値、念意を以て我、一可成、其の心を以て事とし、念を以て事とし、  
一 陽者は正氣値、念意を以て我、一可成、其の心を以て事とし、念を以て事とし、  
一 陽者は正氣値、念意を以て我、一可成、其の心を以て事とし、念を以て事とし、  
一 陽者は正氣値、念意を以て我、一可成、其の心を以て事とし、念を以て事とし、  
一 陽者は正氣値、念意を以て我、一可成、其の心を以て事とし、念を以て事とし、  
一 陽者は正氣値、念意を以て我、一可成、其の心を以て事とし、念を以て事とし、  
一 陽者は正氣値、念意を以て我、一可成、其の心を以て事とし、念を以て事とし、  
一 陽者は正氣値、念意を以て我、一可成、其の心を以て事とし、念を以て事とし、

十二月廿五日

大石内記

堀部孫兵衛



弘化三年丙午春三月應大窪先生之需寫之

白井常壽

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

義人書